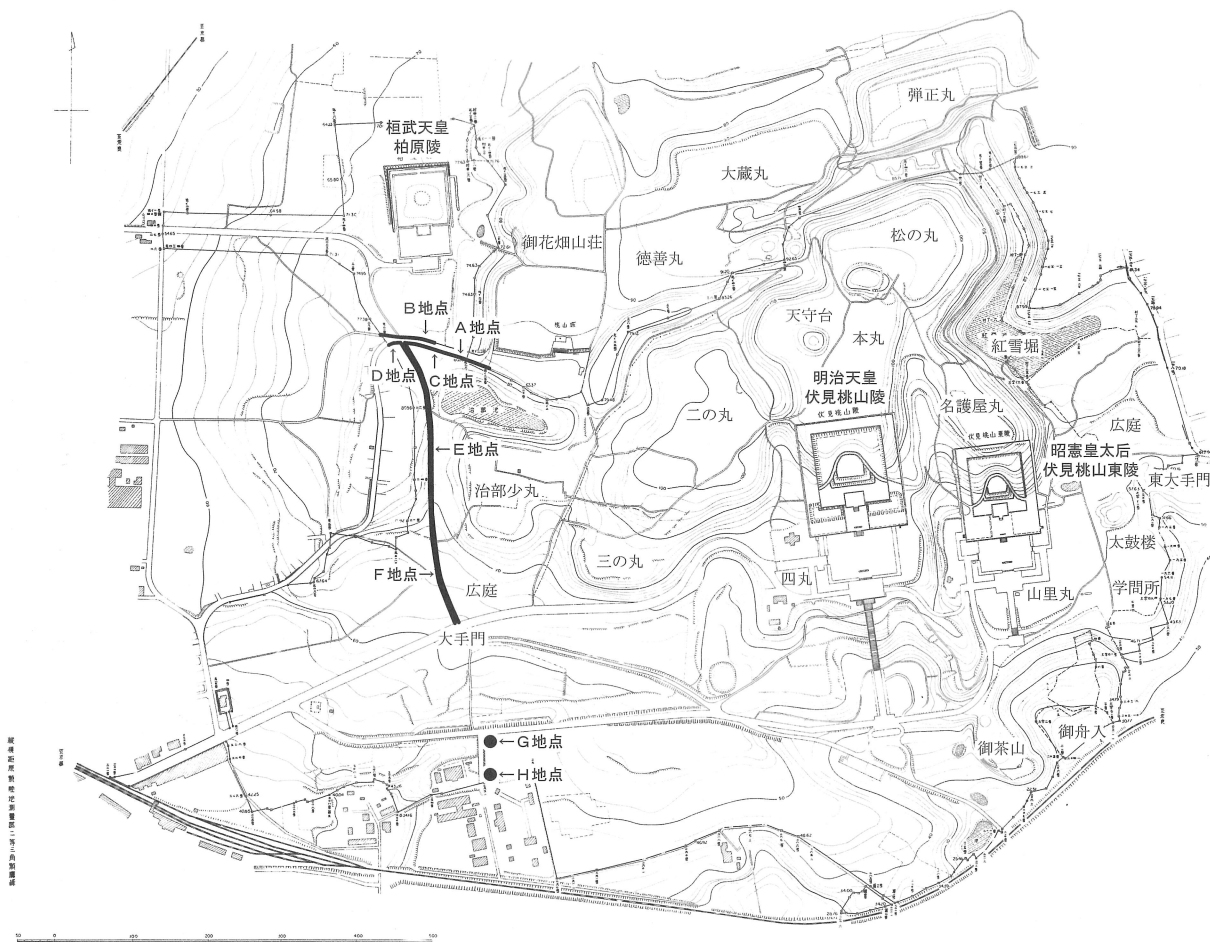


桃山陵墓地外構柵その他整備工事に伴う立会調査

はじめに 桃山陵墓地は、京都府京都市伏見区桃山町古城山に所在する（第84図）。標記の外構柵その他整備工事は、経年劣化した従来の外構柵等を改修するためのものである。その工事掘削は、基本的に近現代の整地土および地山内であったが、一部で中世末から近世の瓦を含む盛土が確認された。ここでは、工事箇所のうちAからH地点、8箇所の状況について報告をおこなう。

なお、本報告は、実際に現地です工事に立ち会った桃山陵墓監区事務所が作成した報告書の内容を、本紀要掲載のため陵墓課で編集したものである。桃山陵墓監区事務所職員による立会調査は、平成24年9月3日から11月20日までおこなった。

立会地点の状況 各地点の状況をAから順に述べる（第85図）。A地点の層序は、表土、近現代の盛土、地山の順で、遺構・遺物は検出されなかった。B地点の層序は、表土、近現代の盛土、年代不明の盛土ないし地山の順で、遺構・遺物は検出されなかった。C地点の層序は、表土、近現代の盛土、年代不明の盛土ないし地山の順で、遺構・遺物は検出されなかった。D地点の層序は、表土、近現代の盛土、瓦片を含む盛土の順で、遺構は検出されなかった。瓦片を含む盛土は、上下の2層に分かれる。上層は、礫を含む暗褐色粘質土で上面の水準高は約78.9mである。下層は、礫を含む明褐色粘質土で上面の水準高は約78.7mである。下層は上層に比べて、しまりがある。上下両層ともに出土した瓦片より、中世末から近世以降の盛土としか特定できなかったが、伏見城整備に関わる整地土の可能性も考えられる。E地点の層序は、表土、近現代の盛土、地山の順で、遺構・遺物は検出されなかった。F地点の層序は、表土、近現代の盛土、年代不明の盛



第84図 桃山陵墓地 全体図 (1/10,000)

土ないし地山の順で、遺構・遺物は検出されなかった。G地点の層序は、表土、近現代の盛土の順で、遺構・遺物は検出されなかった。H地点の層序は、表土、近現代の盛土、地山の順で、遺構・遺物は検出されなかった。

AからH地点の他に、工事では数十cmを測る大きさの石が3箇所検出されたが、平成19年度の調査時⁽¹⁾と同様、遺構に伴う状況ではなかった。

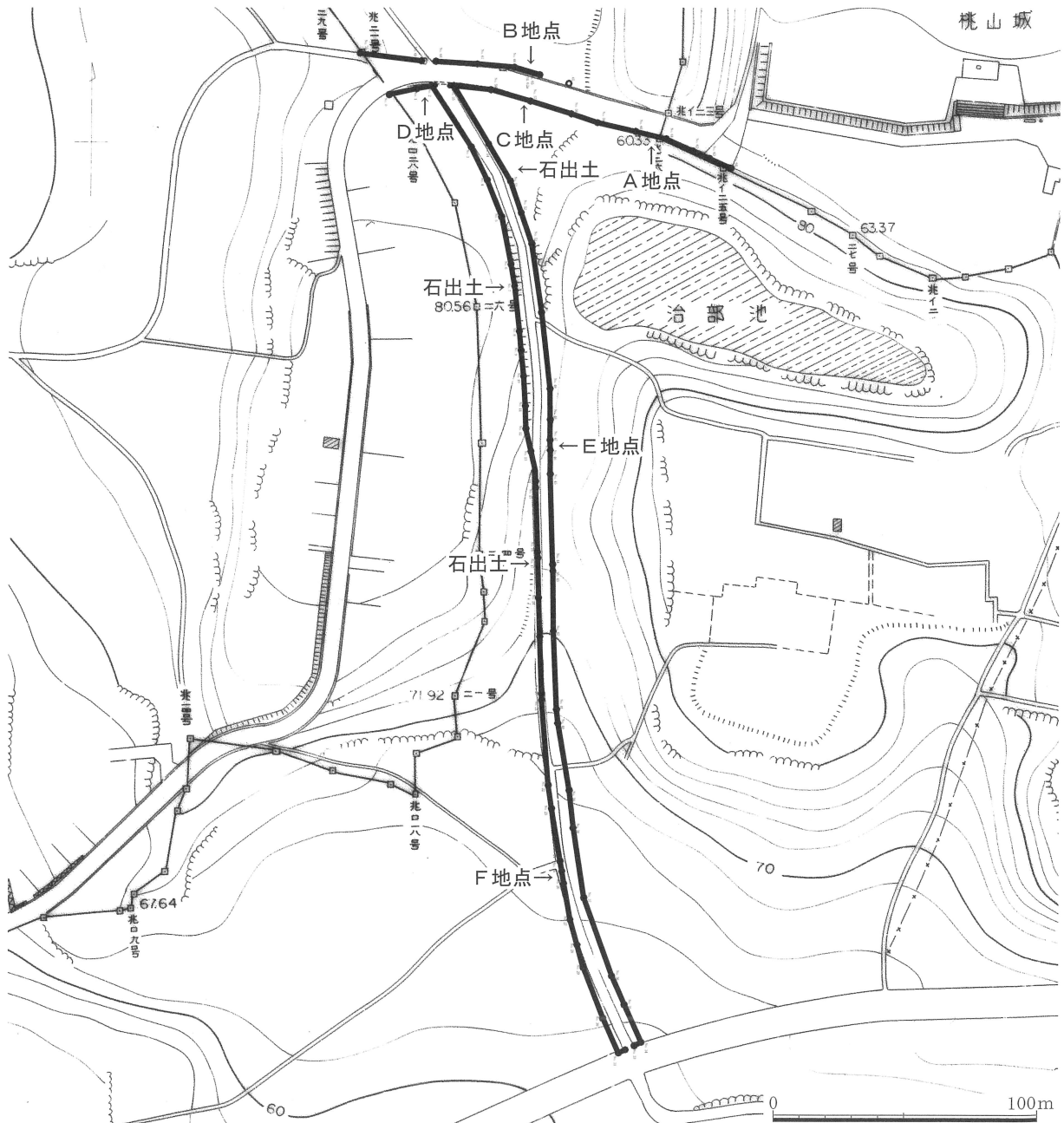
遺物としては、D地点とその排土中より、巴文の軒丸瓦片、丸瓦片、平瓦片、磁器碗片が出土したほか、E地点より北に20mの工事箇所、丸瓦片、平瓦片、陶器甕片が出土したが、いずれも小片である。

まとめ 今回の立会調査では、D地点で瓦片を含む盛土は確認されたものの、明瞭な遺構は確認されなかった。工事掘削箇所のほとんどが近現代の盛土ないし地山であったため、整備工事は予定通り施工した。

(森下利光・妹尾吉紹・上原孝浩・横田真吾)

註

(1) 有馬 伸「桃山陵墓地地下水道管布設工事に伴う立会調査」『書陵部紀要』第60号、宮内庁書陵部、2009年。



第85図 桃山陵墓地 調査地点位置図 (1/2,500)